

令和6年度「西区二十歳のつどい」お祝いのことば

みなさん、明けましておめでとうございます！只今ご紹介いただきました、西区長の三村でございます。皆さん、本日は「二十歳のつどい」、本当におめでとうございます！

すでに皆さんは成人となられているのですが、二十歳を迎えたことにより、さらに多くの法律行為を単独で行えるようになりました。これからは、そういった法的な「成人」から、社会的責任を持つ、分別のある「大人」へとしっかりと自分自身を磨いて行ってほしいと思います。

そういった皆さんに私から、人生の先輩として、また皆さま方のご活躍を期待して止まない近所のサポーターの一人として、今後の人生において、心に留めておいて頂きたいメッセージをお送りしたいと思います。

それは「常に自分自身をしっかり理解し、それにより気づいた得意なものの延長上で人生をとらえるようにして欲しい」ということです。

例えばテストで取った70点を、間違えた30点分を何であんな間違いをしたのか？と否定的に捉えるよりも、できた70点を自分の得意分野は全部正解できた！これは素晴らしい、良かった！という風に捉えてみたらどうかということです。

何でこういう話をするのかということですが、現在不登校児童生徒の急増が問題となっているのですが、それを考えていく中で、対象の子どもたち（学校という環境にどうしても加わることができず苦しんでいる子たち）はどういった想い、気持ちなのだろうかと、自分の人生を振り返りながら、どういう状況が自分には一番苦しかったらどうか？と考えていたんです。

そうする中で、その「環境に適応できず苦しみに苛まれる状況」は、何も小中学生だけに限った話ではなく、大人にも共通する苦しみののだろうかと思い始め、私の人生の中で一番苦しかった時期の話を、皆さんにも少しでも参考になればとの思いで、お伝え出来たらなと考えた次第です。どうかお聞きください。

私の就職当初、新入社員の時代です。

みなさんのうち、まだ就職されていない方はこれから、近い将来のこととして、また既に働いてらっしゃる方は現況と比較して考えて頂ければと思います。

私は今は区長をさせてもらっていますが、元々は今で言うメガバンクに就職いたしました。当時（35年前）の銀行の同期採用数は520人くらい、その後数行と統合して同期の数が約2000人にも及ぶという大所帯でし、ぼやっとしていると埋もれてしまうというような環境でした。

会社に入ると、学生時代のように同級生に囲まれた生活とはガラッと変わって、同期は1割ほどしかおらず、ほぼ先輩・上司に囲まれるという環境でした。

そこでは自分よりもはるかに経験を重ねた方々が既に活躍しており、自分は何をやっても分からないことだらけ、覚えることが多すぎて習熟も中途半端、社内決裁用の稟議を上司に挙げるたびに数々の指摘を受け、自分のできなさ具合に自身でもほとほとあきれ返るような日々で、上司は当然、先輩方もそれぞれスーパーマンに見え、同期でさえ何故か光り輝いて見えるような、そんな状況で、自分は一番出来の悪い社員に思えていました。

それに加え職場環境もかなりひどく、朝は満員電車で1時間以上つぶされながら乗り7:00前には出勤。夜はほぼ毎日22:00まで。時間中は上司の怒声罵声が飛び交い、店頭では多数の待ち人数でお客様からも怒り声がしょっちゅう聞こえてくるという殺伐とした環境でした。

私はどういう人間だったかと言うと、高校まで地元の学校に通い、そこそこいい成績で大学も大阪大学へ入学することができ、何となく「自分は要領よく物事ができる」という根拠のない自信ももっていました。

しかしながら当時はそれが大きくぐらつき、まるで崩壊というような状況でした。目は虚ろで、何事にも集中できない。テレビを見ても全然面白くないような、今から思うとまさに「心が折れた」そんな状況でした。

で、この時どうしたかということなのですが、ある人からのアドバイスもあり、開き直ってしっかり自分を見つめ直すということをしたんです。

銀行は細かい仕事が多く、事務処理スピードが極めて重要になります。またその精度も非常に高いものがもとめられます。しかし私はそういうことが苦手だったんです。いつも誤字脱字がたくさんあるし、資料の添付漏れもたびたび。どうしても上手くいかない。

なので、ここで勝負しても無理なんだろうなと理解して、例えば貸出稟議とかであれば、個別の案件審査よりもそもそもこの会社の成長性は？とか取引継続の意義は？という論点を中心に深く検討し、個別案件というよりも会社全体とか方針決定のような大きな枠組みを中心とした稟議を行うように心がけました。そうするとそれが合ったのか、仕事の効率は上がるし、周囲もその観点からの意見を求めるよう

になっていきました。

おそらく自分は、細かな作業を正確に積み上げるような仕事の仕方よりも、こういった俯瞰的な考え方、その中での取組の方がずっとできるんだろうと確信でき、徐々にではありますが、職場内での状況も変わってきました。

そしてここで私が言いたいのは、先にも申し上げた自分の得意分野（得意なもの延長上）で勝負した方がいいということ。もちろん自分自身をよく理解した上で。

人が「心折れる」というのは、誰かに何か酷いことを言われたとか、大きな事故を起こしてしまったとかいうよりも、そのことをきっかけに自己肯定感が毀損し、「自分はもうだめだと自分自身で思い始めた」ことで起こることなのではないでしょうか？先ほどの私の話でも、仕事が思うように進まないことをきっかけに自己肯定感を下げ、自分の価値を見失っていたのではないかと思います。

これからの人生、きっと何度も苦しいことに向き合うようになると思います。その時は自分の得意分野に持っていく為に何をしたらいいか、考えてみることをお勧めします。それともう一つ「きっと何とかなる！」と信じて欲しいと思います。

それから、話はガラッと変わりますが、今年は「大阪関西万博」が開催となります。「160を超える国、地域が集う未来社会の実験場」是非皆さんにも足を運んでもらいたいと思います。またこのような記念すべき年に、成人としての第一歩を踏み出す皆さんの活躍も非常に楽しみです。

西区役所では「大阪関西万博」の機運盛り上げ、来場促進の取り組みを今年も様々行ってまいります。その一環で本日皆さんに「西区万博 リングノート」をプレゼントさせて頂いております。モノトーンのミャクミャクというのもなかなか貴重でレアです。是非ご活用、宣伝していただけたら嬉しいです。

それでは最後になりましたが、本日開催の労をお取り頂いた松野委員長はじめ実行委員会の皆様のご努力に厚く御礼申し上げますとともに、ご来場の皆様の今後益々のご活躍を祈念致しまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

本日はみなさん、本当におめでとうございます！

令和7年1月12日
西区長 三村 浩也